

術前休薬の必要な薬剤【女性ホルモン剤】 ver2.0

分類	一般名	商品名	採用 (2021年11月時点)	メーカー	休薬について	備考
卵巣ホルモン製剤	エストラジオール	エストラーナテープ0.09mg	外	久光	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
		エストラーナテープ0.18mg	外			
		エストラーナテープ0.36mg				
		エストラーナテープ0.72mg	内外			
	エストラジオール	ジュリナ錠0.5mg		バイエル	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
		ディピゲル1mg	内外	持田		
		ル・エストロジェル0.06%		富士製薬		
		エストラジオール吉草酸エステル	プロギノン・デポー筋注10mg			
	エストリオール	ペラニンデポー筋注10mg、5mg	内(10mg)	持田	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
		エストリール錠1mg、0.5mg、100γ	内外(1mg)	持田		
		エストリオール錠1mg「F」		富士製薬		
		ホーリン錠1mg		あすか		
	エストリオール(膈錠)	エストリール膈錠0.5mg	内外	持田	血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬②	
		ホーリンV膈用錠1mg		あすか	休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与②	
エストラムスチンリン酸エステルナトリウム水和物	エストラサイトカプセル156.7mg	内外	日本新薬	術前は血液凝固能が亢進するため患者のリスクに応じて休薬、術後は血液凝固能を検査して再開②	抗悪性腫瘍剤	
エチニルエストラジオール	プロセキソール錠0.5mg	内外	あすか	患者の背景による血栓症リスクや原疾患の状態を考慮し、手術前4週間・術後2週間の休薬②	抗悪性腫瘍剤	
結合型エストロゲン	ブレマリン錠0.625mg	内外	ファイザー	術前4週間又は長期臥床状態の患者(治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合は投与可)①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照	
黄体ホルモン製剤	クロルマジノン酢酸エステル	ルトラール錠2mg	内外	富士製薬	休薬の必要性なし②	
	ジドロゲステロン	デュファストン錠5mg	内外	マイラン	休薬の必要性なし②	
	ヒドロキシプロゲステロンカブロン酸エステル	プロゲストンデポー筋注125mg		富士製薬	休薬の必要性なし②	
		プロゲデポー筋注125mg	内	持田	休薬の必要性なし、患者の状態を鑑みて判断②	
	プロゲステロン	ウトロゲスタン膈用カプセル200mg	内外	富士製薬	休薬の必要性なし②	産婦人科限定採用、自費
		エフメノカプセル100mg		富士製薬	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
		プロゲホルモン筋注用10mg、25mg	内(25mg)	持田	血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬②	
		プロゲステロン筋注25mg「F」、50mg「F」		富士製薬	休薬の必要性なし②	
		ルティナス膈錠100mg	内外	フェリング	休薬の必要性はないが、血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬②	産婦人科限定採用、自費
		ルテウム膈用坐剤400mg		あすか	休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与②	自費
	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル	ワンクリノン膈用ゲル90mg		メルク	休薬の必要性なし②	自費
		ヒスロン錠H200	内外	協和キリン	術後1週間、術前は4週間休薬し、血液検査で血液凝固能を検査する②	抗悪性腫瘍剤 添付文書:【禁忌】手術後1週間以内の患者
		メドロキシプロゲステロン酢酸エステル錠200mg「F」		富士製薬		添付文書:【禁忌】手術後1週間以内の患者
		プロベラ錠2.5mg	内外	ファイザー	休薬の必要性なし②	
ヒスロン錠5			協和キリン	休薬の必要性はないが、術後では1週間を目安に再開②		
メドロキシプロゲステロン酢酸エステル錠2.5mg、5mg		富士製薬 東和薬品	休薬の必要性なし②			
ノルエチステロン	ノアルテン錠5mg		富士製薬	休薬の必要性なし②		
緊急避妊薬		ノルレボ錠1.5mg		あすか	休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与②	自費
子宮内黄体ホルモン放出システム	レボノルゲストレル	ミレーナ52mg	内	バイエル	休薬の必要性なし②	正規採用(産婦人科のみ処方可能)。避妊目的は自費 子宮内に局所的に作用し、血液中へ移行する量は限られるため、周術期における血栓症リスクに対して休薬の必要性なし すでに装着した状態で骨盤内の手術をする場合は注意

分類	一般名	商品名	採用 (2021年11月時点)	メーカー	休業について	備考
卵巣ホルモン 黄体ホルモン 配合剤	エストラジオール 1mg レボノルゲストレル 0.04mg	ウェールナラ配合錠		バイエル	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
	エチニルエストラジオール 0.05mg ノルゲストレル 0.5mg	プラノバル配合錠	内外	あすか	血栓症のリスクに応じて休業②	
	エストラジオール 0.62mg 酢酸ノルエチステロン 2.70mg	メノイドコンビパッチ	外	久光	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【慎重投与】を参照
	エストラジオール安息香酸エステル 10mg ヒドロキシプロゲステロン カプロン酸エステル 125mg	ルテスデポー注	内	持田	血栓症などに対し患者のリスクに応じて休業②	
	エチニルエストラジオール LD 0.035mg ノルエチステロン 1mg	ルナベル配合錠LD、ULD フリウエル配合錠LD、ULD		日本新薬 多数 (採用は持田)		マーベロン28：産婦人科のみ処方可能
	エチニルエストラジオール0.03mg,0.04mg レボノルゲストレル0.05mg,0.075mg,0.125mg	アンジュ21錠、28錠 トリキュラー錠21、錠28 ラベルフィーユ21錠、28錠		あすか バイエル 富士製薬	手術前4週間から術後2週間まで休業、 産後4週間まで及び長期間安静状態についても休業①	アンジュ、トリキュラー、ラベルフィーユ、シンフェーズ、マーベロン、ファボワールは自費
	エチニルエストラジオール 0.02mg レボノルゲストレル 0.09mg	ジェミーナ配合錠	内外(院内は患者限定)	ノーベル		添付文書: 【禁忌】手術前4週以内、術後2週以内、産後4週以内 及び長期間安静状態の患者(血液凝固能が亢進され、 心血管系の副作用の危険性が高くなる可能性がある。)
	エチニルエストラジオール ノルエチステロン	シンフェーズT28錠	外	科研		
	エチニルエストラジオール 0.03mg デソグエストレル 0.15mg	マーベロン21、28 ファボワール錠21、28	外(28)	MSD 富士製薬		
	エチニルエストラジオール 0.02mg ドロスピレノン 3mg	ヤーズ配合錠、ヤーズフレックス配合錠	外(フレックス)	バイエル		
性腺刺激ホルモン	ヒト下垂体性性腺刺激ホルモン	HMG筋注用75単位、150単位	内(75単位)	富士、あすか (採用は富士)	休業の必要性なし②	添付文書記載(重大な副作用)に注意 ※卵巣過剰刺激症候群が現れた場合、過剰なエスト ロゲン分泌により血液濃縮や血液凝固能の亢進が起 き、血栓症等を引き起こす
		HMG注射用75IU、150IU「フェリング」	内外(150IU)	フェリング		
		フォリルモン注75、150	内(150)	富士製薬		
		uFSH注用75単位、150単位「あすか」		あすか		
ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン (注射用HCG)	ゴナトロピン注用5000単位 筋注用1000、3000単位		あすか	休業の必要性はないが、血栓症などに対し患者のリスクに応じて休業②	休業する場合は、手術予定日から1週間前を目安に行 う (HCGモチダ：メーカー回答)	
	HCGモチダ筋注用3千、5千、1万単位	内(5千単位)	持田			
	注射用HCG3,000単位、5,000単位、 10,000単位		富士製薬			
フォロトロピナルファ	ゴナールエフ皮下注ベン300、450、900	内外(300、900)	メルク	休業の必要性なし②	生殖補助医療は自費	
	ゴナールエフ皮下注用75、150					
コリオゴナドトロピナルファ	オビドレル皮下注シリンジ250µg	内外	メルク	休業の必要性なし②		
Gn-RH アゴニスト製剤	ゴセリン酢酸塩	ゾラデックスデポ1.8mg		キッセイ	休業の必要性なし②	凝血系への影響等については報告されておらず、手術で問題が あったという報告もなし(2021年1月メーカー確認)
		ゾラデックスデポ3.6mg、LA10.8mg	内	アストラゼネカ	休業は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与②	
	酢酸ナファレリン	ナザニール点鼻液0.2%	内外	ファイザー	休業の必要性なし②	
		ナファレリン点鼻液0.2%「F」		富士製薬		
	ブセリン酢酸塩	スプレキュア点鼻液0.15%、MP皮下注用1.8	内外(点鼻液)	持田	休業の必要性なし②	基礎試験では血液凝固・線溶系への影響はほとんどなし
		ブセリン点鼻液0.15%		富士製薬、LS		
リュープロレリン酢酸塩	リュープリン1.88mg、3.75mg	内(1.88mg)	武田	休業の必要性なし②	注射用1.88mg：正規採用(小児科のみ処方可能)	
	リュープリンSR11.25mg、PRO22.5mg	内			PRO22.5mg：正規採用(泌尿器科のみ処方可能)	
	リュープロレリン酢酸塩注射用キット1.88mg、3.75mg	内			あすか、ニプロ (採用はニプロ)	
Gn-RH アンタゴニスト 製剤	ガニレリクス酢酸塩	ガニレスト皮下注0.25mgシリンジ	内外	MSD	該当資料無し	自費
	セトロレリクス酢酸塩	セトロタイド注射用0.25mg		メルク	休業の必要性なし②	自費
	レルゴリクス	レルミナ錠40mg	内外	あすか	休業は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与②	
排卵誘発薬	クロミフェンクエン酸塩	クロミッド錠50mg	内外	富士製薬	休業の必要性なし②	
	シクロフェニル	セキソビット錠100mg		あすか	休業は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与②	
子宮内膜などの 治療薬	ジェノゲスト	ディナゲスト錠0.5mg、1mg、OD1mg	内外(0.5mg)	持田	休業の必要性なし②	血液凝固は亢進しないとの文献報告あり
		ジェノゲスト錠1mg、OD1mg	内外(1mg)	多数 (採用は持田)		
	ダナゾール	ボンゾール錠100mg、200mg	内外(100mg)	田辺三菱	休業の必要性なし②	
女性 男性ホルモン 配合剤	テストステロンエンタート酸エステル 90.2mg エストラジオール吉草酸エステル 4mg	ダイホルモン・デポー注		持田	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】 を参照
		プリモジアン・デポー筋注		富士製薬		添付文書の【慎重投与】を参照

参考資料：①添付文書・IF、②メーカー回答、今日の治療薬2021